

公表所管課長 様

政策推進課長 安田 司

会 議 要 録

名 称	第 2 回西予市総合計画審議会	
事 務 局	西予市 政策企画部 政策推進課 政策・行革係	
	電 話 0894-62-6421	
	F A X 0894-62-6501	
開 催 日 時	令和 8 年 6 月 5 日(金) 13 : 27～17 : 08	
開 催 場 所	西予市役所 5 階 大会議室	
出席者	委 員	西予市総合計画審議会委員 西村勝志（会長）、宇都宮久見子（副会長）、 井上廉、宇都宮正和、大氣新平、小川広幸、甲斐朋香、 富永武仁、シーバース玲名、津田一樹、中川裕子、 古本陽一、山下昌和
	その他	総合計画策定等ワーキンググループ 兵頭秀二、山口勝範、浦田和喜、三好祐介、清家昌弘、 黒田大地、信宮佳子、榊田寿美子、光沖真治、松本幸祐、 梶原明華、徃田剛、植木宏次
	事務局	原井川英一（政策企画部長） 安田司、周藤功治、河野温、藤田早紀、立花将大（以上政策 推進課）
議事内容(要旨)	1．開会 事務局の司会進行により開会した。 2．協議 （1）基本構想（素案）について（前回のふりかえり） （事務局）第 3 次総合計画の基本構想について、本文およ び、第 1 回審議会時点との新旧対照表を用いて説明。基本 理念および行動指針を中心にご意見いただきたい旨を依 頼。	

（委員）行動指針はあるべきだと思う。時代が変わったときや、計画策定時に予期できないことがあったとき、判断に迷ったときに抛りどころになるものが必要。

（会長）「綱領八策」という言葉を使わないことに関してはどうか。

（委員）特に異論なし

（２）基本計画（素案）について（グループワーク）

３グループに分かれ、グループワークを行った後、内容を全体に共有。

（第１グループ）

担当施策は、防災や公共施設等の総務・消防分野、スポーツや移住などの政策企画分野、教育・文化分野。

総論として、多くの分野で地域コミュニティの在り方が関わっている。行政だけでは難しいところを地域でどう解決できるか。

学校教育では、家庭教育や地域ぐるみの教育が重要だという話で、親子のコミュニケーション不足をどう変えられるのかで、「親の学びの場」が重要と話されたが、表現に対しては抵抗感もあった。

火災・救急体制については、基本的に納得いく説明があった。地形的な要因や志願者減少から人員不足につながる。解決策として、適正配置や情報発信、他の団体との連携等により人命被害を減らす方向性で進んでいた。

消防団については、人口減少によって定員割れが進んでいるが、エリアによってはそうでもないことがわかった。また、装備品コストの高騰や財政難の影響もあり、対応が問題になっていることが取り上げられていた。この問題に対し、消防団再編計画や更新計画を見直す説明があった。

文化の振興については、文化財をどう維持するのも踏み込んだ内容だった。人の問題が取り上げられており、ここでも地域コミュニティの重要性が指摘されていた。文化については、関心を持っている人が少ないという要因もあった。民間との連携も必要。

地域コミュニティについては、自治会等の前例踏襲や義務感の喪失によりコミュニティが衰退する流れ、人材の発掘や活用が出来ていないことでアイデアが不足し、情報も広がらないからつながりも減っているとされている。地域コミュニティがどう作られるかといったときに、活動センターだけではなく、地域ぐるみで考える必要性が出てくると思う。

防災・減災について、経験値もあって、どう対応すればいいのかの流れが、自助・共助・公助の枠の中で整理した流れとなっており、地域コミュニティが一つの要素となっていた。

交通安全・防犯については、高齢者の事故、デジタルライフの標準化により犯罪リスクも増加しており、治安が悪化して不安が増加するという流れがあった。デマンド交通等の最適化によって免許返納を促すこと、空き家の活用等により空き家の増加を防ぐことも案としてあげられていた。ネットリテラシー対策や防犯協会との連携も行う。

情報について、完全なデジタル化を推進することは難しく、未だに紙媒体を活用している。ここが一番危惧される状況。高齢者等の情報弱者に対して、情報を提供することも難しいということで、地域コミュニティを活用した情報提供も必要ではないかと考える。

移住定住では、シティプロモーション戦略が不足しており、なかなか移住を促せていない。UターンよりはIターンの状況が良い。自家用車の件はそのままでもいいのかという話も出ていた。受け入れる地域も地域コミュニティが役割を持つことも必要ではないかという話があった。

公共施設については、統廃合の必要性もあるが、道半ばで、適切な維持管理が出来ていない。各対策により、施設の整理・統廃合を進めていく中で、有効な利活用を進めないといけない。

行財政について、職員が不足する中で業務が増えていく背景、事業が廃止できないので業務も減らない。そういう状況では計画を読むことも難しいという状態。少ない人員を

どう活用するのかという面では、デジタルの活用や組織体制、人事異動の適正化等により、サービスの維持・向上を図っていくもの。

基本としては、地域コミュニティ。

（第2グループ）

担当施策は、健康、医療、環境等の生活福祉分野、子育てや高齢者福祉等の福祉分野の8施策。

8つを貫くキーワードとして、「選択肢」、「交流」、「とぎ」が挙げられた。

子育て支援については、少子化も視野に入れながら。漠然とした不安もあることから、一つ一つ解消していく中で、孤立しないことが必要。使える選択肢があることが重要。遠隔診療については、この10年間で進んでいくなかで、使えるものにすることが大切。

健康づくり、医療について。病院が統合されたり、医療従事者が減っているのが住み続ける上での不安なので、それをどうすればいいのかが話題になった。いろいろな対応をしているということだが、病院に行かなくて済むようにという視点で健康づくりの話をした。

なるべく望む方にはつながりを作る、役割を作る、多世代交流の機会を持っていただくことが健康づくりにつながる。地域づくり活動センターの役割の重要性が色々なところで出てきた。

高齢者福祉については、行きたい場所があるという選択肢が確保されていればいい、社会参加をしていただくために、地域づくり活動センターの役割も必要になるが、いろんな方のやってみたいという思いを引き出して、小さな輪を作っていく、柔軟な空気作りが重要。

障がい者福祉については、就労支援関係で、職種のミスマッチが起こっているのを、それを減少させたいとあった。これも「選択肢」がキーワード。エントハウスでやっている取り組みにより、つながりができて、知り合うきっかけになったという話もあった。障害を持っている方だけではなく、マッチングという考えができる仕組みを地域で作っていったらいい。

生活困窮者支援については、新しい視点が出る状況ではない。ケースワーカーが負担を抱えながら頑張っている状況を共有できた。民生委員や福祉総合相談センターの役割の重要性を再認識できた。受給者の8割が高齢者や障がい者であり、就労につなげるのが難しいため、健康に過ごしていただくことが優先。学習支援やICT活用により、ケースワーカーの負担を軽減しながら、貧困の連鎖を断つことができれば良い。

人権・男女共同参画については、当事者との直接対話を含めた交流により、多様な価値観を知ってもらうことが重要。外国人の方については福祉や農業で地域に入っており、相互理解を望んでいる。仲介役がいればうまくいくが、情報提供だけでは難しい。行政に限らず、とぎの役割を担っていただくと良い。いじめに加え、不登校が増えている。不適應による不登校が多い。「どこまな」や、親の学びの場の提供の重要性を再確認した。

環境については、多岐にわたる範囲が一枚に入っていた。リサイクルの話では、分別のメリットを明確化できれば分別が進むという話が合った。自然環境は魅力の一つだが、リサイクル率を上げて、自然豊かな西予市を守れば良い。

鳥獣害については、シカが増えている。野良猫も含め、対応していかないといけない。

(第3グループ)

担当施策は産業分野と、まちづくり分野(建設・上下水道)。産業については、稼ぐ力をどう確保するのが論点となった。課題認識としては、市内産業の衰退が地域経済の停滞を招き、雇用環境も悪化している結果、人材の流出が起きているという点が挙げられた。

まちデザインについては、コンパクトシティをどう進めるのか、それに合わせて上下水道はインフラとしてどう管理していくのかという内容。課題認識や戦略の説明を受けたうえで、気になっているポイントを議論した。

まちづくりの部分では、コンパクトシティという総論は良いが、どう実現するのかの詰めが必要。

	1 つは、住民側から見てコンパクトシティをどう目指しているのかと、考える時間が必要。もう 1 つは、行政側と市民側で必要な機能の擦り合わせが必要。 産業については、根底的に地域経済が縮小している。人口減少というトレンドがある中で、西予市に住んでいる人が減っても、隣町から来る人たちでも市の産業が続いていくことは考えるべき。販路を増やすことも必要。担い手の育成は、働き手なのか経営者なのかで方向は変わってくる。農業については網羅的に見えていたが、どこまで要因分析図に表すべきかが人によって分かれた。言葉の定義にこだわるのが計画をよくするポイントになる。 3. その他 第 3 回の会議日程について調整を行い、今後の予定を共有した。 4. 閉会 以上をもって閉会。
備 考	